帯状疱疹の予防接種を受ける前にお読みください

予防接種の効果や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることやわからないことがあれば、医師に質問し、十分に理解してから接種を受けてください。予診票は、医師が予防接種の可否を決める大切な情報であるため、正しく記入してください。

帯状疱疹とは

帯状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。帯状疱疹は、70歳代で発症する方が最も多くなっています。

帯状疱疹ワクチンとは

帯状疱疹ワクチンには生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）、組換えワクチン（乾燥組換え帯状疱疹ワクチン「シングリックス」）の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応等の特徴が異なっていますが、いずれのワクチンも、帯状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

	乾燥弱毒生水痘ワクチン（ビケン）	乾燥組換え帯状疱疹ワクチン（シングリックス）
接種回数（接種方法）	1回（皮下に接種）	2回（筋肉内に接種）
接種スケジュール	—	通常、2か月以上の間隔を置いて2回接種 ※病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。
接種できない方	病気や治療によって、免疫が低下している方は接種できません。	免疫の状態に関わらず接種できます。
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

予防接種を受けることができない方

①接種当日、明らかに発熱のある方（一般的に、37.5℃以上の場合）
②重篤な急性疾患にかかっている方
③予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー（※）を起こしたことが明らかな方
④その他、医師が予防接種を行うことが不適当と判断した方

（※）アナフィラキシーは、じんま疹等の皮膚症状、腹痛や嘔吐等の消化器症状、息苦しさ等の呼吸器症状が急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。

接種を受けるときに注意を要する方

①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患がある方
②予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹等のアレルギー症状があった方
③けいれんを起こしたことがある方
④過去に免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
⑤帯状疱疹ワクチン（生ワクチン、組換えワクチン）の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方

帯状疱疹ワクチンの効果

		乾燥弱毒生水痘ワクチン（ビケン）	乾燥組換え帯状疱疹ワクチン（シングリックス）
帯状疱疹に対するワクチンの効果（報告）	接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
	接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後10年時点	―（効果について未評価）	7割程度の予防効果

※合併症の一つである、帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

帯状疱疹ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。
接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の発現割合	乾燥弱毒生水痘ワクチン（ビケン）	乾燥組換え帯状疱疹ワクチン（シングリックス）
70%以上	なし	疼痛*
30%以上	発赤*	発赤*、筋肉痛、疲労
10%以上	そう痒感*、熱感* 腫脹*、疼痛*、硬結*	頭痛、腫脹* 悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感*、倦怠感、その他の疼痛

＊ワクチンを接種した部位の症状　各社の添付文書より厚労省にて作成

他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。ただし、乾燥弱毒生水痘ワクチン（ビケン）については、他の生ワクチンと27日以上の間隔を置いて接種してください。

接種を受けた後の注意点

- ワクチンの接種後30分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。
- 注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。
- 当日の激しい運動は控えるようにしてください。

予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。
接種後に健康被害が生じ、入院治療が必要となったり、その後に障害が残ったりした場合には健康被害救済制度の対象となる場合があります。詳しくは市ホームページをご確認いただき、ご不明な点がある場合は、神戸市保健所保健課（電話：078-322-6788）にご相談ください。

ⓘ 詳しくは、市ホームページでご確認ください。　神戸市　帯状疱疹　予防接種

シニア予防接種コールセンター　平日8：45～17：30
TEL 078－777－4349　FAX 078－291－5953